

福岡座禅道場俳句会五月句会結果

天
地地地地

一房の揺るるだになし藤の寺
 紫陽花の雨を待ちわび咲きにけり
 無傳
 霊峰
 日下部
 日下部
 朝坐禅ただひと鳴きにほととぎす
 霊峰
 日下部
 日下部
 麦秋や車窓より去る夕景色
 人
 人
 ドヴォルザーク車中に響き麦の秋
 霊峰
 日下部

42 41 40 39 38 37 36 35 34 33 32 31 30 29 28 27 26 25 24 23 22 21 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

クレマチス永劫回帰を咲かせたり (ちせい) 1
 命日に笥持てる和尚かな (浄淵) 11
 歩く人奔るあり麦の秋 (日下部) 11
 乾坤のしな作る子ら夏舞台 (真光) 2
 楳心をおえて目に沁むゼラニウム (無傳) 2
 樟の古葉落ちて若葉に席ゆずり (宗道) 1
 朝坐禅ただひと鳴きにほととぎす (霊峰) 6
 笥は見向きもされず伸び放題 (寶州) 11
 薔薇園の熟年夫婦ばかりかな (霊峰) 11
 万緑に十八番の田原坂 (白堂) 3
 なきながらに温もりかすか鴨の雛 (宗道) 1
 たかんなを只管数へ坂登る (浄淵) 1
 Tシャツの汗のくっつくランドセル (真光) 6
 菖蒲湯に浸りて願う子の成長 (日下部) 6
 薫風の三缶を吹く夕べかな (ちせい) 12
 薫風や鯉は口開け餌をねだる (寶州) 12
 茶風味のカステラ届き楳心会 (白堂) 4
 旗上ぐる家の稀なり昭和の日 (宗道) 4
 桜蕊降る護岸にびっしり踏まれ行く (ちせい) 1
 捨てられし自転車崩る五月雨 (真光) 1
 一房の揺るるだになし藤の寺 (霊峰) 5
 1 1
 麦秋や車窓より去る夕景色 (日下部) 5
 1 1
 春陰や新参者で目が潤む (ちせい) 1
 1 1
 振り向けば青草残る作務の跡 (白堂) 2
 2 2
 太からぬ人すれ違ふ山開き (真光) 3
 3 3
 竹の子の小さき獣の生るるかに (浄淵) 2
 2 2
 卵の花に欠けたる鳥や今いずこ (無傳) 2
 2 2
 門前にばら華やげる外科医かな (宗道) 2
 2 2
 足裏に竹の子踏み嬉しさよ (浄淵) 4
 4 4
 遠音して踏切の鳴る麦の秋 (霊峰) 1
 1 1
 黒揚羽うすい風にも流さるる (真光) 12
 12 12
 師の膳に菜ひと皿付け夏安居 (白堂) 1
 1 1
 乾杯も勢いのまま初鰹 (日下部) 6
 6 6
 強き風波打つ麦穂は秋なりき (寶州) 1
 1 1
 顔洗ふ目に単色の菫かな (ちせい) 1
 1 1
 ドヴォルザーク車中に響き麦の秋 (霊峰) 5
 5 5
 たかんなを狙ひし老の眼の光り (浄淵) 1
 1 1
 鴨の子の動き素早く数へかね (宗道) 1
 1 1
 たるみたる腕不味かるう蚊の群れて (白堂) 3
 3 3
 草イチゴ頬張る幸せ散歩かな (寶州) 4
 4 4
 紫陽花の雨を待ちわび咲きにけり (無傳) 6
 6 6
 歩を止めて聞き入る声よ杜鵑 (寶州) 2
 2 2

次回6月句会の投句締め切りは六月二十一日(日)です。

